

藤田浩子の 少し昔のこと 〈95〉

赤ちゃんをあやす ②

「赤ちゃんをあやしてあげて、話しかけてあげて」と若いお母さんに言うと「こんな何もわからない子に何を話せばいいのですか？」と訊かれます。赤ちゃんに歌ってあげたり語ってあげたりするのは、理解させるためではないので、わかるとかわからないとかの基準で考えないほうがいいと思います。「赤ちゃんを寝かせるときになにか歌ってあげて」と言うと「子守唄を知りませんから歌えませんか」とおっしゃる方もいるのですが、子守唄でなくてもいいのです。私の友だちに美空ひばりファンがいて、ひばりの歌で寝かしつけていました。どんな歌でも、小さい声で静かにゆっくり歌えば子守唄になります。

大事なのは歌ってあげること、お父さんやお母さんがナマの声で歌いかけたあげることです。機械から出てくる声でなく、体温の感じられるナマの声で



歌ってあげることです。調子っぱずれであろうが、言葉が間違っていようが、そんなことは二の次三の次です。

「ちょちちょちあわわ」なんていい大人が、他人の見ているところでやるのは恥ずかしいし、変な人と思われてもいやだから、だれも見えていないのを確かめてから赤ちゃんにやって見せています、なんて言う若いママもいます。だれも変な人なんて思いませんよ、むしろほほえましく見る人のほうが多いでしょう。赤ちゃんの笑顔を見ると、たいていの人はしあわせな気持ちになります。

そうやってあやしている人は赤ちゃんだけでなく、まわりの人も幸せにしているのです。堂々とあやしてください、と言いたくなります。そうやってあやし歌を歌ってもらった赤ちゃんは、その歌を、心の奥底にしまっておくのです。お母さんやお父さんの声を通して、お父さんやお母さんから「信頼」や「安心」を受け取り、身につけ蓄えているのです。たくさん歌ってあげましょう、あやしてあげましょう。

リレー連載 <228>

わたしの大好きな絵本

なるるん(ベリーズ)

『かいじゅうたちのいるところ』は、私の大好きな絵本です。きっかけは、息子が大好きだったから。

「これ！読んで！」とリクエスト数ダントツで、一緒に絵本を見ては、物語の世界に入り込み、マックスやかいじゅうたちと私たち親子も一緒に踊ったり…わくわくドキドキ楽しい体験を味わっていました！そんな息子も大人になりましたが、先日、大きくなった背中を丸めて『かいじゅうたちのいるところ』を読んでいるではありませんか！読み終わると、「これ、懐かしいなあ。ほんと楽しい！」ってつぶやいていました。(笑)子どもの頃に何回も見

『かいじゅうたちのいるところ』

作： モーリス・センダック

訳： じんぐう てるお

出版社： 富山房

大好きな絵本…大人になっても心に記憶に残っていて…そして面白さは変わらない！絵本って、最強ですね。

子ども時代はもちろん、大人になっても、物語の中のドキドキやわくわくを感じられるそんな冒険感満載の絵本です！

そして、マックスが最後に帰る場所は！！どこでしょう？ぜひ読んでみてくださいね！

